

### Ⅲ. 愛知県水素ステーション整備・配置計画

#### 1. 愛知県内の FCV 普及目標

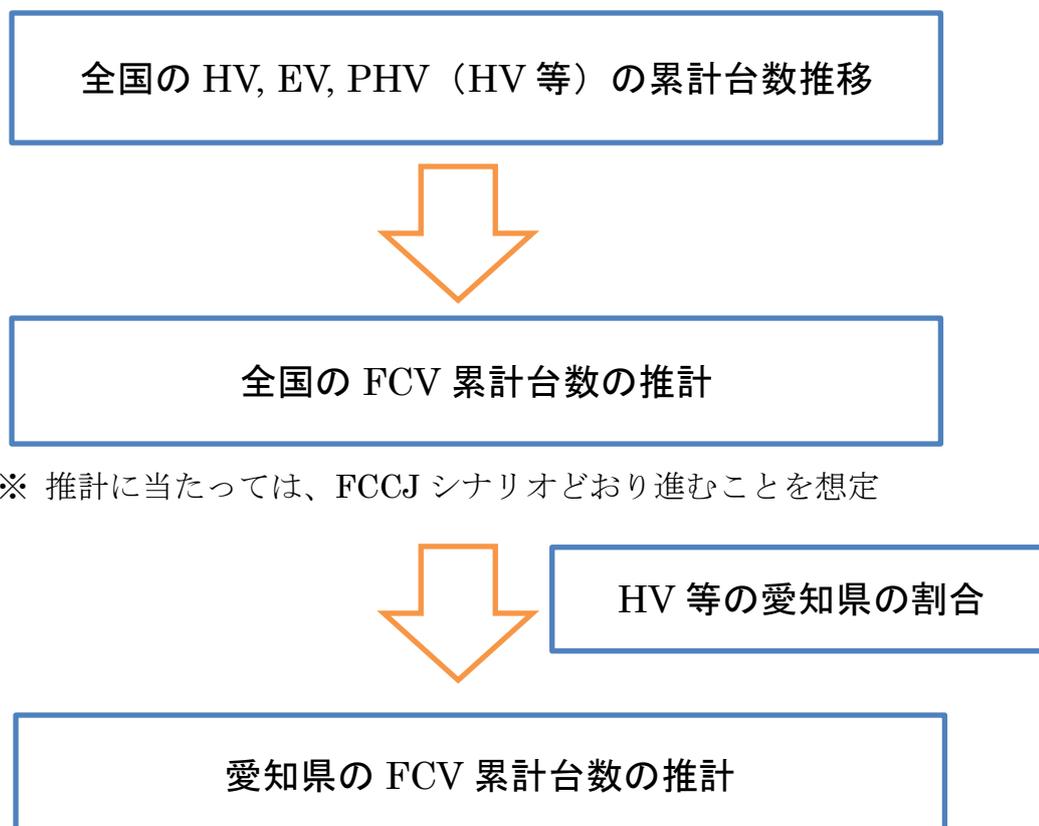
##### (1) FCV 普及目標設定の考え方

本計画においては、前述の FCCJ シナリオで設定された目標どおり、FCV ユーザーのメリット（価格、利便性等）が確保されて、順調に普及が進むものとし、2025 年における FCV の普及台数は全国で 200 万台、水素ステーションも全国で 1,000 基程度が設置されていることを想定する。

普及目標の設定に当たり、まず、次世代自動車に分類される HV、EV 及び PHV（以下、HV 等）について、全国の登録・販売累計台数（登録台数又は販売台数の累計。以下、累計台数）の推移を分析した。次に、FCV についても HV 等と同様の累計台数の伸びを示すものとし、FCCJ シナリオを想定の上、全国の FCV の累計台数を推計した。

これにより得た推計値に、HV 等の愛知県が占める割合の要素を加味し、愛知県の FCV 累計台数を推計した。

以下にその流れを示す。

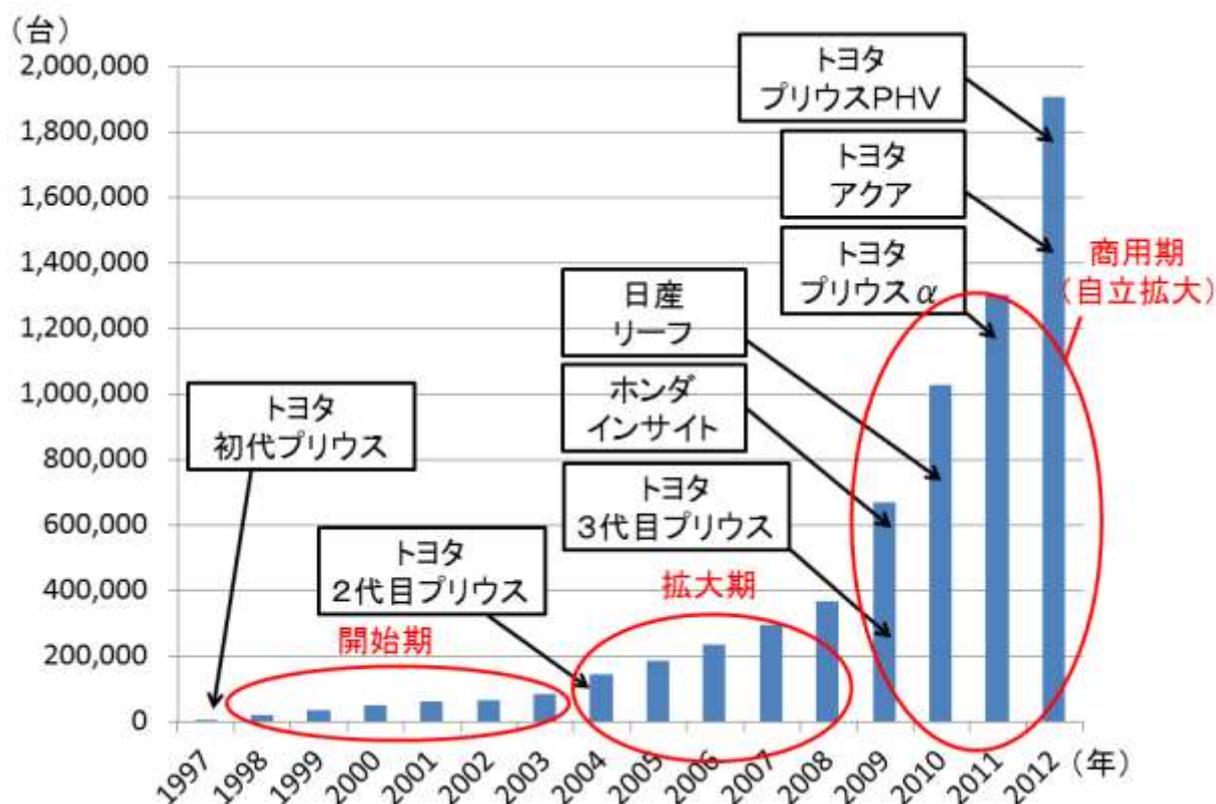


## (2) FCV 普及目標設定のシナリオ

### ア. HV 等の累計台数の全国実績

愛知県における FCV の普及台数を推計するにあたり、まず、既に販売されている次世代自動車である HV 等の全国の累計台数の推移を分析した。

HV 等累計台数（全国実績）



※ 以下の車種に関する全国累計台数を集計

HV : プリウス・プリウスα・アクア（トヨタ自動車）

インサイト（本田技研工業）

EV : リーフ（日産自動車）

PHV : プリウス PHV（トヨタ自動車）

（各台数は自動車メーカー2013年提供資料）

累計台数は、モデルチェンジ時、新車種の投入時に大幅な伸びを示していることが分かる。特に2009年以降は、各メーカーから様々な車種が投入されており、累計台数の伸びが著しい。

累計台数の増加傾向から、以下のとおりおおよそ5年ごとに3つの期間に区分できる。さらに、このHV等の累計台数の実績は、以下のとおり、FCCJシナリオの開始期、拡大期、商用期と重ね合わせることができる。

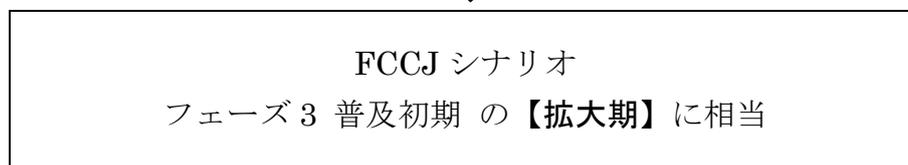
#### <1998～2003年>

トヨタ自動車から初代プリウス（HV）が発売されてから、2代目プリウスが発売されるまでの期間。この期間は、毎年、ほぼ一定の台数が販売されている。



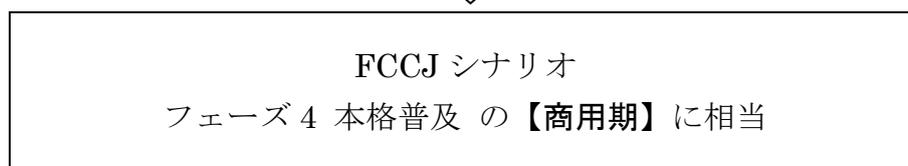
#### <2004～2008年>

トヨタ自動車から2代目プリウスが発売されてから、3代目プリウス及び本田技研工業のインサイト（HV）が発売されるまでの期間。モデルチェンジにより、累計台数の伸びが増加している。



#### <2009年～>

トヨタ自動車から3代目プリウス、本田技研工業のインサイト及び日産自動車のリーフ（EV）が発売されてから現在に至る期間。さらなるモデルチェンジに加え、各メーカーから複数車種が続々と登場し、累計台数は大幅な増加傾向を示している。



## イ. FCV 累計台数（全国）

FCCJ シナリオでは、2025 年に FCV が 200 万台程度（前提条件：FCV ユーザーのメリット（価格・利便性等）が確保されて、順調に普及が進んだ場合）としている。

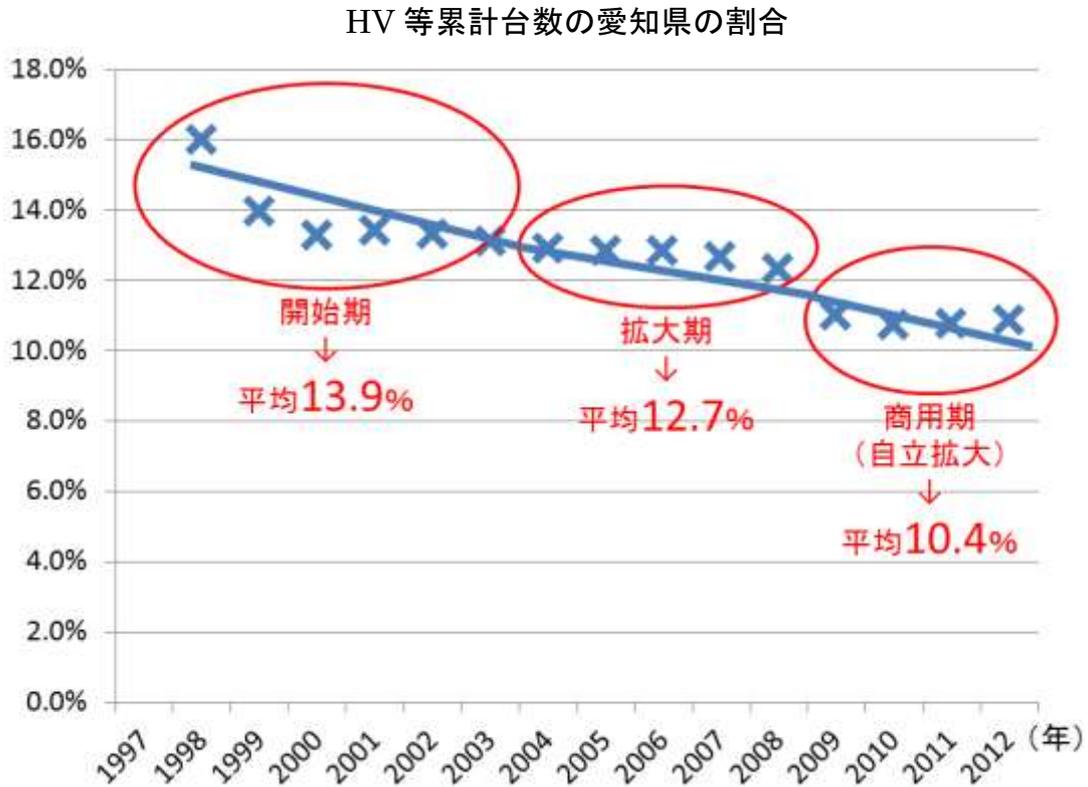
これを前提に、HV 等の累計台数における開始期、拡大期の台数及び増加率をもとに、2025 年に累計 200 万台を達成するように、各年における FCV の全国の累計台数を推計すると以下ようになる。



- ※
- ・ 2015～2019 年を「開始期」とし、HV 等の累計台数の開始期の台数及び増加率を適用
  - ・ 2020～2024 年を「拡大期」とし、HV 等の累計台数の拡大期の台数及び増加率を適用
  - ・ 2025 年以降を「商用期」とし、HV 等の累計台数の商用期の台数を適用

## ウ. 愛知県の割合

愛知県のHV等の累計台数の推移を分析し、全国のHV等の累計台数のうち、愛知県が占める割合を算出すると以下のようなになる。



※ HV等（22 ページ図下の車種）に関し、全国累計台数に対する愛知県累計台数の割合を計算

HV等に関して、愛知県の開始期における平均割合は13.9%、拡大期は12.7%、商用期（自立拡大）は10.4%となっている。

一方、自動車保有台数（乗用車）の全国台数に対する愛知県の割合は、6.7%である。（資料：一般財団法人自動車検査登録情報協会「都道府県別・車種別自動車保有台数（軽自動車含む）」のうち、乗用車の保有台数（2013年3月末現在））

このように、愛知県では、HV等の割合が、乗用車全体の割合と比較して1.6～2.0倍と非常に高く、特に、販売初期におけるシェアが高い傾向にある。

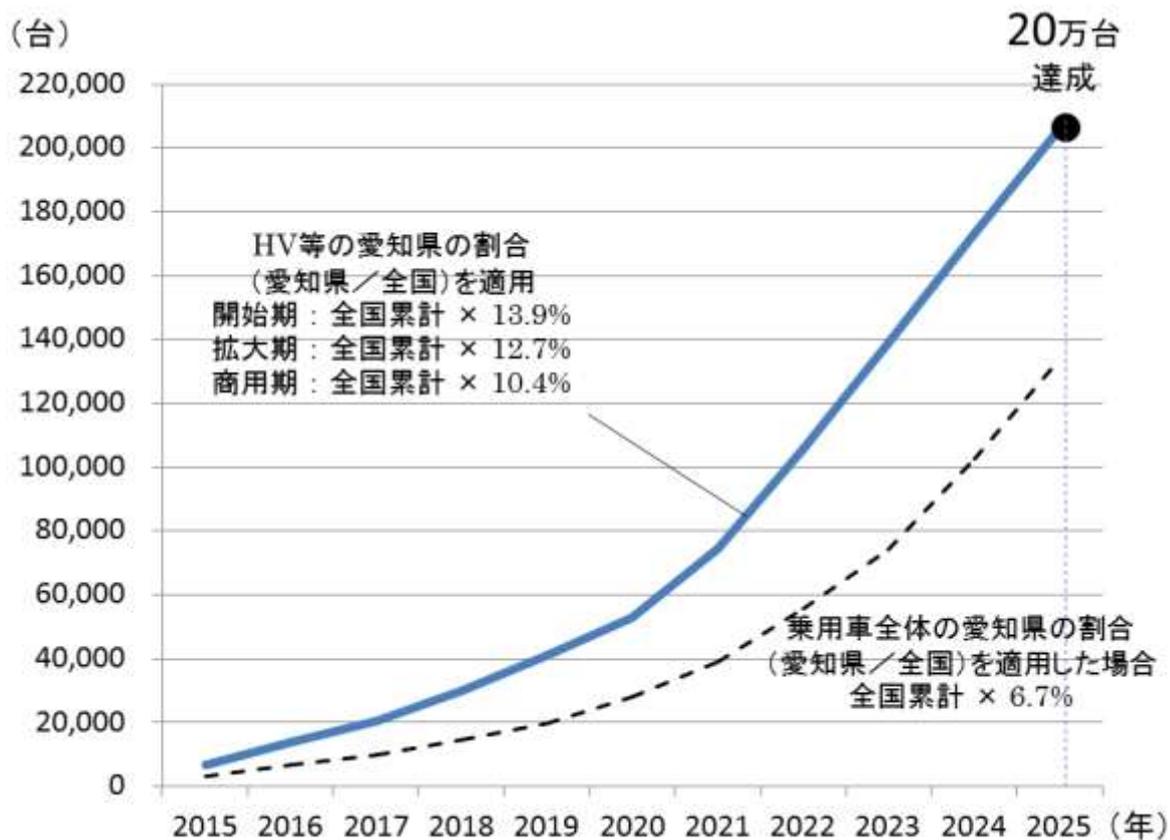
FCVについても、HV等と同様の割合を確保できるものと想定し、開始期に位置づけた2015～2019年の割合を13.9%、拡大期に位置づけた2020～2024年の割合を12.7%、商用期に位置づけた2025年の割合を10.4%として、愛知県のFCV累計台数の目標を算出することとした。

## エ. FCV 累計台数（愛知県）

FCV の全国累計台数の推移と、HV 等の愛知県の割合をもとに、愛知県における FCV の普及台数を推計すると下図のとおりである。

(参考として、乗用車全体の愛知県の割合 6.7% で計算した場合を点線で示した。)

FCV 累計台数（愛知県目標）



FCCJ シナリオによる FCV と水素ステーションのビジネスが成立する 2025 年には累計台数が 20 万台を達成していると推計される。

## オ. 愛知県における FCV の普及目標

2025 年度 累計台数 200,000 台達成

前提条件：FCCJ シナリオのとおり、FCV ユーザーのメリット(価格・利便性等)が確保されて、順調に普及が進んだ場合